「第1回 自動車運送事業安全対策検討会」議事概要

日　時 ： 令和５年７月２１日（金）　１５：００～１７：００
場　所 ： 中央合同庁舎３号館８Ｆ自動車局第１、第２会議室Ａ・Ｂ（対面・WEB併用）
出席者 ： 酒井座長、小川委員、加藤委員、鷺川委員、田久保委員、寺田委員、濱田委員、
林委員、山内委員、（欠席・秋山委員）
国土交通省自動車局安全政策課、技術・環境政策課、旅客課、貨物課

議事次第に沿って、事務局からの資料の説明後、質疑応答が行われた。主な内容は以下の通り。

議題（１）本検討会の設置について

○ 本検討会において、行政と委員の関係性がより積極的なものになることを期待しており、今後の政策に生かせるようにしたい。

議題（２）最近の交通事故発生状況について

議題（３）個別施策の令和５年度取組内容について

○ 軽貨物の事故件数が増えているが、例えば走行距離や台数当たり、走行エリアによってリスクが変わるのかも見る必要がある。健康起因の事故が全体のどれくらいを占めるかもグラフ等で確認できるようにしてほしい。

○ 軽貨物の事故件数が増えているという話だが、もう少し深掘りしてほしい。オンライン通販の増加等による交通量増加が主要因かもしれないが、例えばこれまで普通貨物だったものを軽貨物で代替しているから事故が増えている等、背景を深掘りできれば対策を考えやすくなる。また、死亡重傷事故に関して、運転者や乗客などの車内の人が亡くなっているのか、それとも歩行者などの車外の人が亡くなっているのかも確認できると良い。

○ 軽貨物の事故については件数だけではなく、事故の強度にも目を向けるべきではないか。飲酒運転対策はスクリーニング検査と並行して水際対策に力を入れるべき。健康起因の事故はマニュアル作成が目的化しすぎないようにしてほしい。対象運転手を適切に業務から外す等の仕組みを検討する必要がある。バスの車内事故に関しては日本ほど座席が少なく、立つ人が多い国は珍しい。未だに信号停止中の両替等、車内移動を求めるような会社もあると聞く。着席を促せるような車両や仕組みも考えないといけない。

○ 事故件数は減っているが、良くなった実感はない。トラックでは追突事故が圧倒的に多く、原因は居眠り運転、漫然運転、車間距離の３つ。特に車間距離を取る意識が定着しておらず、どう啓蒙するかが大きな課題。飲酒運転も対策に力を入れているが未だ無くならない。物流の２０２４年問題も見据えて取組を進める必要がある。

○ バスの車内事故が多い要因として無理な割り込み、車間距離の問題がある。加えてタイムプレッシャーがあり、運転士は任された仕事を時間内に遂行したいと考える。利用者の遅れに対する意識は厳しくなっており、運転士がクレームを受けることもある。遅延に対して利用者に理解してもらえるようにする必要があるのではないか。

○　バスの車内事故に関して、運転手には定時運行と事故防止のストレスがある。乗客とどうコミュニケーションを取るかが重要になる。バス降車時にどうすればいいかなどのモデルとなる行動に関して、動画等で周知する方法もある。

○　車内事故は運転手だけではどうにもならない。どのようにすれば利用者に理解してもらえるかを考える必要がある。運行管理に関しては、業務量が多いことからＩＣＴ活用で効率化を進める必要があると同時に、対面が向いている業務もあることに注意が必要。

○　車内事故防止では、車内モニターやカメラを付けることで死角をカバーできるようにしているところもある。ドライブレコーダーを活用し、悪質な割り込みに関しては、警察への情報提供を積極的に行うのはどうか。明らかなものは警察も協力的に動いてくれると思う。また、既存のバスレーンの拡充といった走行環境の整備もお願いしたい。急加速にならないよう踏み込みの抑制等を含めて何かできないか。飲酒運転対策、バス業界ではルールの徹底がなされている。高齢化が進む中、健康起因事故防止に関してはＩＣＴを活用した厳格な乗務可否判断に加え、予防として脳・心臓ドック等の拡充もより一層進めるべきではないか。

○　車内事故は高齢者が車内で倒れた時に大きな問題になる。具体的な事例を踏まえて対応を考えなくてはいけない。視野欠損が本当の事故原因なのかは注意する必要があり、網膜細胞の厚み、レンズ（水晶体）の濁り等を含めて考えるべき。

○　対面点呼には正常性バイアスがかかりやすく形骸化しかねない。きちんと判断すべきところは機械で行うという形ができると良い。法制化すると中小企業にとって金銭的な負担が大きくなるので、中小企業の意見を聴きながら取組を進める必要がある。

○　本日の資料、情報量が豊富で参考になる。運行管理者講習、適性診断でいかに事故防止の重要性を周知・徹底するかが重要となる。マニュアルは通常、作って終わりとなることが多いので、いかに読んでもらって中身を理解してもらうかを意識する必要がある。

○　全体の事故分析を見ると、令和２年から件数が横ばいでおそらく新型コロナウイルスの影響が出ているが、今後これが令和元年の水準まで上がるかは気になるところ。オンラインでの購買形態が増える中、軽貨物の事故は今後増えるのではないか。大きい事故ではないかもしれないが、路地裏や細かい交差点で起きる可能性があり、様子を見るべき。飲酒運転対策では、新規技術の導入事例を共有、展開する必要がある。ＩＣＴ活用に関しては、残業時間年９６０時間の問題もあるので効率的に使うことで時間の問題をクリアできないかと考える。乗合バスの車内事故防止では車内ミラーを活用して乗客の状況を確認することも考えられるが、乗客側が見られるのを嫌がることを気にして、結果ミラーでの確認をしないケースもある。最新のカメラを導入しているところの成果や効果を伝えていく必要がある。

○　本日の意見は新しく生まれるワーキングにぜひ活かしてほしい。

議題（４）その他

委員からの意見は特段なし。

以上